

1、はじめに 神学部25年

失ったもの

2、強いられた恵み以前

神学部に3年編入、「神学部自治会」「死ん学」

岩国の反戦コーヒーハウス「ホビット」、

76年、大学院前期課程、京都大学東南アジア研究センター紀要「東南アジア研究」

霊南坂教会で、ここで牧師になった。

新島短大、11年、この時からタイ・スタディ・ツアー、1994年、神学部に

3、強いられた恵み

関西学院、神田先生、「強いられた恵み」、この言葉で

同志社神学部が教団認可神学校であること

25年の間、修士論文に関わった人、50名、博士論文に関わった人、10名

「教える」「指導する」のではなく、「手伝う」

4、そして与えられたもの

「神学する」「Doing Theology」、合計30年、学生とともにタイ・スタディ・ツアー

先輩である望月賢一郎、その他、韓国、沖縄、タイなどへ

個人的には、東南アジアの国、そのキリスト教

神学する主体 キリスト教史研究

「3つの目」 日本、欧米、そしてアジアへの視点

5、暫定的結論

このことについての暫定的結論

日本の近代史とキリスト教

「外圧による近代化」

日本のキリスト教 中央、頂点、集中ではなく逆に、周辺、辺境、のなかにこそ

歴史的特質のなかで、周辺、マージナル、ここに使命、課題があることを

6、おわりに 神学部の同僚、事務室の職員、学生の皆さんに

感謝